

平成29年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立嘉瀬小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

平成28年4月18日(火)

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 〔国語A、算数A〕	主として「活用」に関する問題 〔国語B、算数B〕
<ul style="list-style-type: none">・ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・ 実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	<ul style="list-style-type: none">・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況、児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

■ 調査結果及び考察について

全国学力・学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご欄ください。

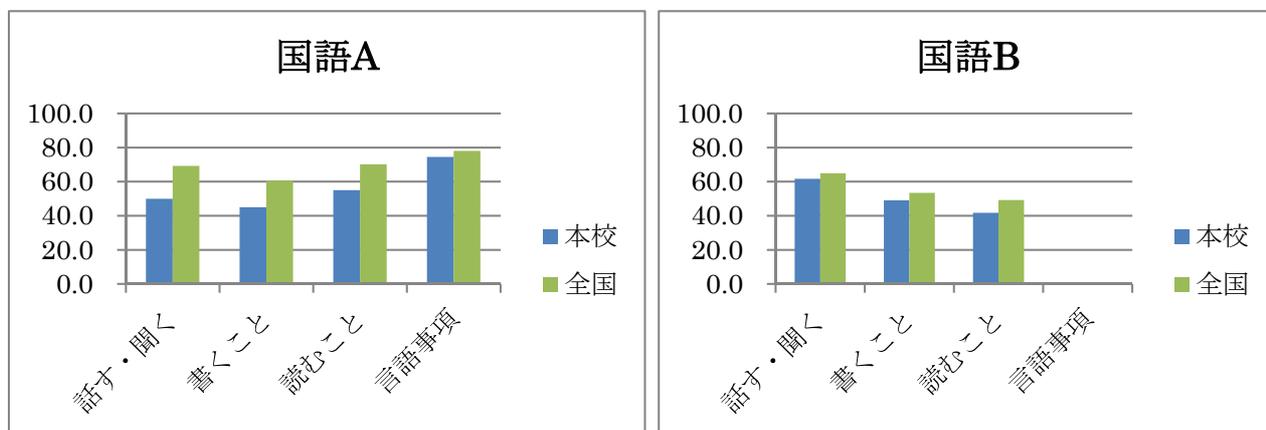
■ 調査結果及び考察

1 国語

(1) 結果

言語事項では全国と同じレベルにあったが、全体では、国語A、国語Bともに、全国平均、やや下回った。活用力をみる国語Bでは、話す聞くでは同レベルにあるが、読むことに関する事項で落ち込みがみられる。

全国及び佐賀県の領域別正答率との比較



(2) 課題

話す・聞く

- ・互いの話を聞き、考えの共通点や相違点を整理しながら話す問題に課題があった。目的に応じて質問したいことを整理したり、互いの立場や意見を踏まえた上で、質問や意見をしたりする力をつけていく必要がある。

書くこと

- ・目的に対し、必要な内容を整理して書く問題に課題があった。目的や意図に応じて読み手に分かりやすく伝えるにはどのような構成で書けばよいのか判断する力をつける必要がある。また、手紙の書き方にも課題があった。伝統的な手紙の書き方なども知っておく必要がある。

読むこと

- ・話し合いの中で自分の考えを広げたり深めたりする際に相手の意図をくみ取る問題の正答率が低かった。ものの見方や考え方を広げるために、物語を読んで感想を伝え合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができるようにする必要がある。

言語事項

- ・言語事項については、漢字の読みやことわざの意味理解の項目では正答率は高かったが、同音異義語の表記に課題があった。国語辞典や漢字辞典の利用を習慣づけるなど、語彙を豊かにする取り組みの必要がある。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

朝の「読書タイム」、読書ボランティアによる「読み聞かせ」や「必読図書認定賞」「百冊認定証」の授与、司書や図書委員会による本の紹介など、児童を読書へ誘う活動を継続して行っています。また、「素読暗唱タイム」を実施し、継続して美しい日本語にふれる機会を作っています。

授業では、「学び合いの時間」を設定し、友だちに自分の意見を説明しあうことで理解を深めています。また、総合的な学習の時間に国語科で培った力を発揮する機会を設定することで、教科と実生活を関連づけ、意欲をもって主体的に学習に取り組む力の育成を目指しています。

【家庭では】

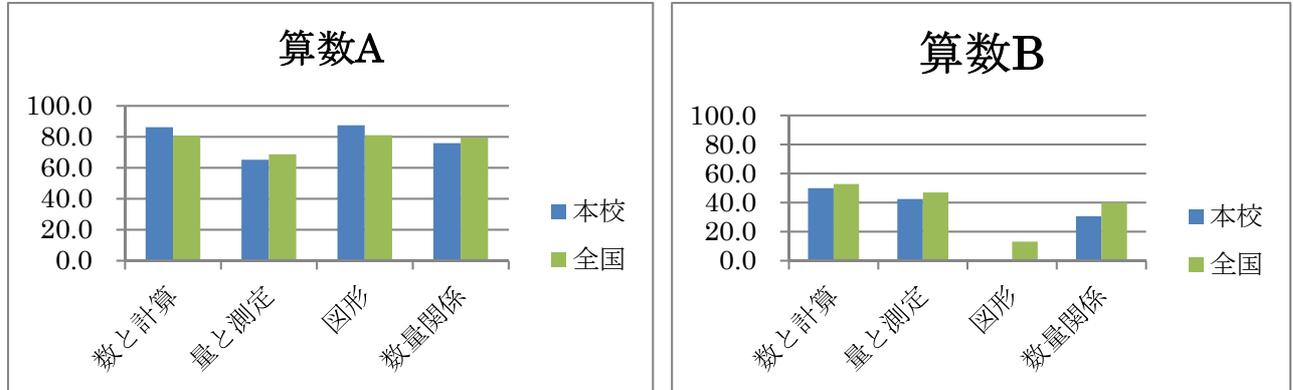
国語の力は、一朝一夕に身につくものではありません。日常的に、継続的に、楽しみながら取り組むことが大切です。これまでのように素読タイムの暗唱や音読を聞いて、一言感想を言ってあげたり、一緒の空間で、読書をしたり（家読）することが児童の意欲にもつながります。

2 算 数

(1) 結 果

算数Aでは全国と同レベルかやや上回る領域がある。算数Bでは、やや全国平均を下回った。ただ、児童の解答を詳しくみると、計算ミスが多く、考え方や式は正しく導き出しているにもかかわらず、最後に間違えるなど、処理の過程で結果に結びついていない実態がある。

全国及び佐賀県の領域別正答率との比較



(2) 課 題

数と計算

- ・加法と乗法が混合した計算の正答率がやや低かった。計算の仕方を定着させるだけでなく、仕組みも考えさせる必要がある。

量と測定

- ・仮の平均の考え方を活用して測定値の平均を求める問題の正答率が低かった。仮の平均を求める考え方の理解と共に平均がどのくらいになるかを見積もったり、能率的に処理するための計算を工夫したりすることを日常からやっておく必要がある。

図 形

- ・身近な物に置き換えた基準量と割合を基に比較量を判断する正答率が低かった。割合と基準量及び比較量の関係は分かっているにもかかわらず、身近な物に置き換えた時に3つの量がどれに当たるのかを判断する力に課題がある。

数量関係

- ・資料から2次元表の合計欄にどんな数が入るか数学的な考察ができていない。また、問題に示された二つの数量関係を一般化して捉え、そのきまりを言葉と式を用いて説明することに課題があり、式の意味を言葉で表したり、言葉を式に表したりして、自分の考えを相手にわかりやすく説明する活動を大切にしたい。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

算数科の基礎・基本となる四則計算の力が定着するよう反復練習を行うとともに、単元ごとの学習内容の確実な習熟を目指して、学習の後に適応問題を行い、つまづいている子への早めの対応を心がけています。また、問題の見通しを立てさせ、自分で考えた解決の方法をグループや全体で交流するなど、主体的な学びを通して思考力の向上を図っています。さらに、少人数やTTなどの学習形態を取り入れ、児童の理解度に応じた指導を行っています。

【家庭では】

基礎・基本の定着には、反復学習が必要です。また、生活と関連づけて、算数科の学習が役に立つ体験をすることも大切です。例えば、買い物のときに、見積もりを考えさせたり九九を使って解決できる問題を出したりするなど、日常的に学習した内容を生かせる体験をさせてください。

■調査結果及び考察

3 生活習慣や学習習慣に関する調査（一部抜粋）

(1) 結果（割合は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計値）

《児童の特徴について》

調査項目	県全国比	本校割合	県割合	全国割合
学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある。	↑	100%	86.8%	87.8%
人の役に立つ人間になりたい。	↑	100%	93.3%	92.6%
将来の夢や目標を持っている。	↑	100%	85.9%	85.9%

「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある。」や「人の役に立つ人間になりたい」に全児童が肯定的に答えた。本校が地域と共に取り組んできた、児童一人一人に出番・役割を与え承認の場面を作ることが、自己肯定感を高める結果となっている。

《生活習慣について》

調査項目	県全国比	本校割合	県割合	全国割合
朝食を毎日食べている。	—	95.2%	94.9%	95.3%
平日平均1時間以上読書をする。	↑	19.1%	16.0%	16.9%
平日平均2時間以上テレビを見る。	↑	61.9%	56.3%	55.4%

朝食については、毎日食べている児童が全国や県と同程度だった。1時間以上読書をする児童の割合は全国や県に比べて多いが、テレビを2時間以上見ていると答えている割合も多く、時間の使い方について見直す必要がある。（□太枠は改善したい項目）

《学習習慣について》

調査項目	県全国比	本校割合	県割合	全国割合
学習の目標とまとめをノートに書いている。	↑	100%	93.6%	88.6%
学級の友達と話し合う活動をよく行っている。	↑	95.2%	85.0%	84.5%
相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝える。	↑	90.4%	79.0%	78.1%
家で学校の授業の復習をしているか。	↓	33.3%	51.8%	53.9%
平日平均1時間以上、勉強をしている。	↓	47.6%	62.5%	64.6%
自分で計画を立てて勉強をしている。	↓	47.6%	64.5%	64.6%

授業では、目標やまとめをきちんとノートに書くなど学習方法が定着しており、話し合い活動も全国平均より高い。授業では工夫して発表することを心がけるなど意欲的に学習に取り組むことができている。

反面、家庭学習の様子を見てみると、平日、1時間以上勉強をしている児童や自分で計画を立てて勉強をしている児童は共に約5割と全国と比べて低い。宿題はきちんとしているが、復習や予習に取り組む児童は少なく、自主学習の割合を増やすなど課題の出し方の工夫が必要である。（□太枠は改善したい項目）

(2) 学力向上のための取り組み

【学校では】

「学習のすすめ」にもあるように、宿題には、家庭学習の習慣化や自己学習力をつけるというねらいがあります。高学年になるにつれて、自分で考えて学習に取り組む課題を多くしていきます。また、児童の学習意欲が持続するように宿題に目を通し、コメントを書いたり直接声をかけたりしています。

【家庭では】

児童が、何事にも意欲的に取り組むためには、良い生活習慣を身につけさせることがとても大切です。また、自分で学習に取り組む習慣が身につくまでは、目の届く範囲で、家庭学習に取り組ませることも大切です。良い習慣づけを学校と連携して行うため、宿題や連絡帳にサインをしてください。